

# 在庫の機能と在庫投資関数

村田治（関西学院大学） 森澤龍也（流通科学大学）

日本経済学会 2010 年度秋季大会（関西学院大学）

## 報告要旨

従来、在庫の機能としては生産平準化やバッファー・ストック機能に焦点が当てられてきた。この生産平準化やバッファー・ストック機能は、出荷や需要の変動を在庫の変動で吸収し生産の変動を抑制することを意味し、いわば、この在庫の変動は、意図せざる在庫投資と考えられる。このような形で生産の変動が抑制されるなら、当然のことながら、景気の変動そのものも抑制されると考えられる。したがって、生産平準化やバッファー・ストック機能は景気の変動を抑える要因であり、在庫循環の説明要因でないと推測される。

もう一つの重要な在庫の機能として品切れ防止機能がある。これは、出荷や需要の変動に対して品切れや在庫過剰を防ぐために、生産変動の集積を図るという考えがある。この在庫の変動は、意図した在庫投資と見なすことができよう。この場合、出荷や需要の変動に対して、生産の変動が誘引され在庫循環が生じうると考えられる。

他方、在庫循環モデルでは、従来、在庫投資関数として Lovell(1961)のストック調整型在庫投資関数が前提とされることが多い。しかしながら、これまで、このストック調整型在庫投資関数と在庫の生産平準化機能や品切れ防止機能との関係は、ほとんど考察されてこなかったのが実情である。

本稿の目的は、まさに、この Lovell 型在庫投資関数と在庫の機能の関係を理論的、実証的に明らかにすることである。この関係を明らかにすることによって、ストック調整型在庫投資関数の背後にある在庫の機能が明確になり在庫循環を発生させる要因が何であるかを明白にできると考えられる。本分析によると、生産の集積化が生じている場合には、ストック調整型の在庫投資関数が成立している可能性が高いことが示唆される。